

不登校経験越え 親子で写真展

八幡の大塚さん、23・25日

八幡市の写真家・大塚典子さん(59)が、不登校を経験した長男の自然写真家・伸洋さん(36)との親子展を23、25の両日、市文化センター(同市八幡)で開く。自殺未遂に追い込まれるほどのつらい体験を乗り越えた親子の歩みを伝える機会にしたいと企画する。典子さんは「見に来た人が元気に、幸せな気持ちになるような写真展にしたい」と話す。



不登校を経験した長男との親子展を初開催する大塚典子さん。手にしているのは長男の作品(八幡市八幡)

伸洋さんは担任からの暴力やクラスでのいじめを受け、12歳の時に腹をナイフで切って自殺を図ったという。伸洋さんの不登校に対する学校や世間、家族ら

「人の幸せ願い撮影」

の無理解や偏見に典子さん自身も苦しんだ。そんな中、伸洋さんは写真の世界にのめり込むようになった。

典子さんは「学校へ行かなければならないと思って苦しむ人をなくしたい」と、不登校となりアート作品を制作していた次男の輝夫さん(34)との作品展開催や、美術展へ出展などを重ねた。伸洋さんは生まれ育った大分市に住み、アルバイトしながら各地を撮影に回る。

典子さん自身は2009年ごろから写真を本格的に始めた。富士山や海などの自然をテーマに亡き夫の応援を得て撮影に取り組み、個展を開催したり、書籍に写真が採用されたりするようになった。「『あなたの写真で生きる希望を取り戻せた』と言った人もいる。人の幸せを願い撮影することが、自分の喜びにもなっている」と熱く語る。

展示は約80点。午後1時と7時から写真解説を行い、不登校などの経験についても話す予定。午前11時～午後8時。無料。問い合わせは典子さん090(6308)3254。

(近藤大介)